Vol.1 2006.7.

京都芸術劇場

ニュースレター

Newsletter shunjyuza/studio21

4・5・6月の公演より

京都造形芸術大学主催
京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム

ATG Film Exhibition

（同時開催：ATGポスター 葛井欣士郎コレクション展）

詳細は7ページへ▶▶▶▶

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

コンサート ジェネシス（始原）・I

詳細は4ページへ▶▶▶▶

スケジュール・ピックアップ

『響きeyeコンサート』

春秋座 アンサンブル・シリーズ 第2回『美しきブラス・クインテット 世界の旅』

『瓜生山歌舞伎 ―市川亀治郎の挑戦―』

シンポジウム『新・妖怪談義 夏の縁（壱）』＆妖怪狂言『豆腐小僧』

『もうひとつの歌舞伎舞踊 ―女師匠たちの坂東流―』

4・5・6月の公演より

上映会「エドワード・サイード OUT OF PLACE」

シンポジウム「エドワード・サイードの記憶と痕跡をめぐって」

オペラ「松風」―能「松風」に基づいて―

猿之助の世界 第二章

アルジュン・ライナ『マジック・アワー』

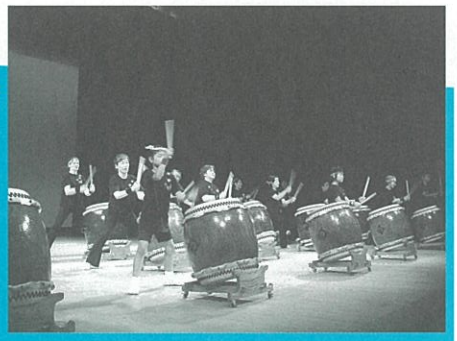
春秋座 アンサンブル・シリーズ 第1回『風が作る音楽』

舞台芸術10 特集＝教科書問題

スケジュール・ピックアップ
Schedule Pickup

第5回 京都造形芸術大学 和太鼓研究センター登録者チーム発表会・和太鼓教室修了発表会

『響きeyeコンサート』



日　時：2006年7月15日（土）開場13:30／開演14:00

会　場：京都芸術劇場 春秋座

入場料：800円（前売・当日とも）

チケット取扱・お問合せ：和太鼓研究センター
075-791-9145（受付：平日10:00～18:00）

京都造形芸術大学 和太鼓研究センターで開講している、和太鼓教室の受講生および本センターの会員登録チームによるコンサートを開催します。5回目となる今年は、3歳から76歳までの総勢約130名の出演者が9チームで競演。各チームそれぞれの持ち味を生かした和太鼓の音色を、どうぞお楽しみください

京都造形芸術大学主催

春秋座 アンサンブル・シリーズ 第2回
『美しきブラス・クインテット 世界の旅』

秋月孝之

橋爪伴之

村上哲

ロイド高本

橋本晋哉

春秋座アンサンブル・シリーズ第2回目は、金管楽器のアンサンブルです。今回の演奏は、大阪フィルハーモニー交響楽団の華麗なる金管奏者4人と、フランスで学び、今日本で活躍するテューバのヴィルトオーソ橋本晋哉。
ヴィヴァルディからアーノルドまで、ヨーロッパ、アメリカの金管作品の美しさを極める響きをお楽しみください。

日　時：2006年7月22日（土）
開場17:30／開演18:00

会　場：京都芸術劇場 春秋座

入場料：全席自由 一般 2,500円 学生&ユース 2,000円　（当日各500円増）
＊来場回数が増すごとにチケット料金が安くなるお得な「リピート割引」があります。詳しくは京都芸術劇場チケットセンターまでお問合せください。

演　奏：トランペット…秋月孝之、橋爪伴之　ホルン…村上哲　トロンボーン…ロイド高本　テューバ…橋本晋哉

プログラム：P.デュカ『ラ・ペリ』より「ファンファーレ」　L.マウラー『金管五重奏曲のための小品集より
M.アーノルド『金管五重奏曲』　A.ヴィヴァルディ『協奏曲』
E.クレスポ『アメリカ組曲』

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

『瓜生山歌舞伎 ―市川亀治郎の挑戦―』

市川亀治郎

―『奥州安達原』の見どころ

安部一族の反乱を描いた『奥州安達原』。今回の舞台は全五段のうち三段目にあたる「袖萩祭文」です。
浪人者と駆け落ち同然で家出、子供まで成したというのに夫は行方知れず、病で盲目となり今は三味線の弾き語りをし物乞いに落ちぶれてしまった袖萩。袖萩の父は皇子を誘拐された責任をとって切腹。皇子を誘拐したのは実は袖萩の夫・源氏に敵対する奥州の豪族安部貞任だったという悪縁。愛を貫いただけなのに…。袖萩の悲しい女の物語。袖萩に救いはあるのだろうか。
袖萩と貞任はひとり二役で演じられることが多く、亀治郎も二役に挑戦する。歴代の名優が好んで演じたこの芝居の魅力はどこにあるのか。亀治郎がその秘密を解き明かしてくれます。

―『松廼羽衣』の見どころ

漁夫伯竜に羽衣をかえしてもらおうと必死の天女が優美に舞い踊るという舞踊。伴奏曲の常磐津は三味線の聴き所が多い名曲。亀治郎が春秋座の舞台機構をいかした新演出で春秋座版「松廼羽衣」を見せます。

日　時：2006年7月29日（土）開場13:30／開演14:00
7月30日（日）開場13:30／開演14:00
7月31日（月）開場13:30／開演14:00
＊30日の終演後、出演者によるポスト・パフォーマンス・トークがあります。

会　場：京都芸術劇場 春秋座

入場料：全席指定 一般S席 8,000円 A席 6,000円
学生&ユースS席 6,000円 A席 4,000円
（当日各500円増）

演　目：奥州安達原 三段目 袖萩祭文の場
常磐津 松廼羽衣

出　演：市川亀治郎、片岡愛之助、中村亀鶴、坂東竹三郎
市川段四郎　ほか

『平安京・平城京 摩訶不思議の宴2006』シンポジウム『新・妖怪談義 夏の縁(壱)』&妖怪狂言『豆腐小僧』

日　時：2006年8月11日(金) シンポジウム…15:00～18:00
妖怪狂言…18:20～19:00

会　場：京都芸術劇場 春秋座

入場料：全席自由 一般 4,000円(当日各500円増)

シンポジウムパネリスト：鏡リュウジ(占星術研究家)
麿赤兒(俳優・舞踏家・大駱駝艦主宰)他

妖怪狂言：『豆腐小僧』(京極夏彦作／茂山あきら演出)
出演…茂山千之丞、茂山あきら
茂山千三郎、茂山茂

近代産業遺産アート再生計画プロジェクト第2弾。
「異界」「聖地」「魔界」・・・京都・奈良といった日本文化の発祥地には、その土地にまつわる摩訶不思議が多く存在します。国際化、高度情報化が進み日本人の想像力や感性が失われつつある今、京都・奈良に伝承される妖怪・もののけの世界を紐解き、日本文化やその精神を再発見するとともに、観光都市ではないもうひとつの京都の顔を見聞し、あらたな地域振興、観光資源を探ります。
また京都会場では、シンポジウムの他、京極夏彦作、茂山あきら演出による妖怪狂言「豆腐小僧」を上演します。
夏の京都で繰り広げられる摩訶不思議の宴に、ぜひご来場ください。

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

『もうひとつの歌舞伎舞踊 ―女師匠たちの坂東流―』

日　時：2006年9月7日(木) 開場13:00／開演13:30

会　場：京都芸術劇場 春秋座

入場料：全席指定 一般 3,000円 学生&ユース 2,000円
(当日各500円増)

演　目：第1部 デモンストレーション：ここが坂東流
「京鹿子娘道成寺」「加賀の菊」「しのぶ売」
第2部 対談：女師匠たちの坂東流
家元 坂東三津五郎／今尾哲也
第3部 舞踊：清元「納豆売」

出　演：坂東三津五郎　坂東寿子
坂東勝友　坂東温子　ほか

日本舞踊坂東流は文化文政期の歌舞伎の名優 三代目坂東三津五郎を流祖とする流派です。
「加賀の菊」は、歌舞伎の初期の若衆歌舞伎で踊られたもので、今残る一番古い歌舞伎舞踊です。また、「しのぶ売」は俗に「召せや」ともいい、宝暦頃 歌舞伎狂言の中に短く挟まれた踊りです。坂東流ではこれらを子供のてほどき物として伝えてきました。そして、ともに坂東流でのみ伝えられているものです。
このような伝統芸能の規範がどのように受け継がれてきたのか、どのようにして未来に伝えていくのか、実演と対談を通して、伝統芸能の未来についての問題提起をしていきます。

坂東三津五郎

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター 刊行物の御案内

舞台芸術10 特集＝教科書問題 6月25日発売 定価2,100円 責任編集＝太田省吾、鴻英良)

近年、大学をはじめとする公教育に「舞台芸術」を組み込むケースが増えています。そのなかで中心となって実践的教育に携わっているのは1968年世代(＝アングラ)以降のアーティストたち。彼らの多くは、「教科書」的なメソッドを否定し、公教育に対して懐疑的な活動を行ってきました。その彼らがいま教壇にたち、なにを語ることができるのか？ そんな問いかけが、本特集の出発点となっています。
舞台芸術は明治以来、「美術」や「音楽」と異なり、公教育から排除され、その基礎となるべき身体や言語に関する考察が、軍事的な身体の規律・訓練、国家による国語教育などに取り込まれてきました。そして、その一方で、現代社会において舞台芸術は「身体知」や「公共性」を回復するための新たな教育モデル、教育メディアとしての役割が期待されています。こうした歴史、状況下において、舞台芸術における公教育の構築はいかに行われるべきなのでしょうか？
本特集では、日本近代化の過程における諸問題と、舞台芸術の公教育の関係を検証しつつ、反＝教科書的教育装置としての舞台芸術の可能性を問いかけます。

◆長編論考 タデウシュ・カントル 翻訳＝工藤幸雄
「二〇世紀の終りを前にして ―第十二回ミラノ講義」

◆共同討議
「教科書への問い、あるいは日本／近代／演劇のアポリア」
絓秀実／熊倉敬聡／内野儀／鴻英良／八角聡仁

◆論考・エッセー
宮沢章夫／塚原史／田崎英明／李静和／守中高明
田尻芳樹／佐伯隆幸／新野守広／阿部初美／山田せつ子

◆対談 渡邊守章×太田省吾 司会＝森山直人
「演劇教育とフィクション―『教科書』にはどんな観点が必要か？」

◆時評・連載
内野儀／桜井圭介／小林昌廣／川村毅／森山直人
フレドリック・ジェイムソン

◆京都造形芸術大学舞台芸術研究センターの活動について
――「第一期」終了の報告と展望　八角聡仁

◆『舞台芸術』第一期　1～10号総目次

＊『舞台芸術』第一期1～10号をまとめてご購入いただける場合、1割引(送料無料)にてご提供いたします。
詳細は舞台芸術研究センター(075-791-9437)までお問い合わせください。

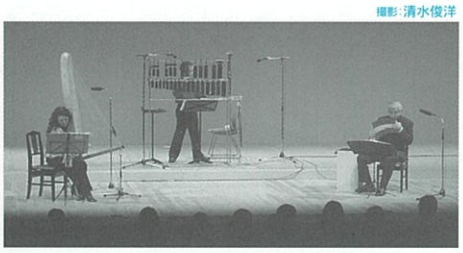
京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

コンサート　ジェネシス(始原)・I

―正倉院の楽器群や古代エジプトのハープなどを復元して甦った始原楽器が繰り展げる現代の音楽冒険―

日　　時:2006年4月28日(金) 19:00開演(18:30よりプレトーク)
会　　場:京都芸術劇場 春秋座
出　　演:佐々木冬彦、笹本武志、篠崎史子、芝祐靖、西陽子、摩寿意英子、山口恭範(50音順)
復元考証・企画構成:木戸敏郎(舞台芸術研究センター主任研究員)
協　　力:国際交流基金・スタジオノハラ

撮影:清水俊洋



箜篌(くご)(じょうじゅ)

本コンサートのタイトルにある「始原(ジェネシス)」とは、あらゆる音楽が横行する現在において、現行の音楽概念を克服するための、還るべき音楽の原点といえます。それは「古代(アンティーク)」でもなく、「起源(オリジン)」でもない概念であり、それを実際の演奏を通して確立することが、本コンサートのねらいであるといえます。

始原の音を実現するために開発された始原楽器―古代エジプトハープ、箜篌(縦軫(じょうしん)及び転軫(てんしん))、箏、拝簫(はいしょう)、横笛、方響など―は、正倉院にある天平楽器やルーブル美術館にある古代エジプト楽器などを元に復元されたものです。これらの楽器から出る音は情報量が豊富であり、それらが有機的に連関しながら表れます。

コンサート当日、演奏前のプレトーク(企画構成の木戸敏郎による)では復元された楽器の仕組みや製作の過程を丁寧に解説し、コンサート本編の第一部では、同曲を演奏することで、それぞれの復元楽器の音を聞き比べるという趣向を凝らしました。続いて、第二部では「禮記」(鳥養潮作曲)、「暦年千二百」(石井眞木作曲)、「メモワールヴィーヴ」(野平一郎作曲)といった楽曲を合奏しました。普段、耳に聞きなじみのない復元楽器の音が織りなす演奏は、コンサート当日、多くの聴衆を惹きつけることとなりました。

始原楽器が生み出す音の構造に立ち返り、ここから出直して歴史とは違う方向での音楽の伝統をやりなおそうとする、今回の試みは意義深いものとなりました。

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

上映会 長編ドキュメンタリー映画 佐藤真監督作品

「エドワード・サイード OUT OF PLACE」

シンポジウム「エドワード・サイードの記憶と痕跡をめぐって」

©シグロ

日　　時:2006年5月1日(月)　上映①13:00～／シンポジウム16:00～18:00／上映②18:30～
会　　場:京都芸術劇場 春秋座
パネリスト:マリアム・サイード(エドワード・サイード夫人)、鵜飼哲(フランス思想・文学)、佐藤真(映画監督)、八角聡仁(批評家)　　共催:シグロ

2006年度より舞台芸術研究センターでは、フランスの作家ジャン・ジュネ(Jean Genet 1910－1986)が、パレスチナを巡って晩年に書いた代表作『恋する虜』を通して、〈ダンス〉の言語・空間・時間を作り出していくプロジェクトをスタートさせました。2008年を目処にダンス作品として結実させることを目標に、あらゆる角度からの研究を重ねていきます。この関連企画として、本学 映像・舞台芸術学科教授でもある映画監督・佐藤真による長編ドキュメンタリー映画「エドワード・サイード OUT OF PLACE」の上映会とシンポジウムを行いました。

映画では、パレスチナ出身の世界的に知られる知識人、エドワード・サイード(Edward W. Said 1935－2003)の精神の在り処を求め、レバノンにあるサイードの墓、エルサレムの生家など、ゆかりの場所の現在をたどり、家族や同僚、友人ら彼を知る人々によって、その人柄や思想が語られます。そしてパレスチナの人々の暮らし、イスラエルに帰還してきたユダヤ人達の生活など境界線を生きる人々を映し出していきます。サイードの遺志と記憶を辿る旅は、イスラエル・アラブ双方の知識人達の証言を道標に、サイードが求め続けた和解と共生の地平を探っていきます。

映画を通じて次第に浮かび上がってくるエドワード・サイードの存在は、彼の不在にもかかわらず、観客に強烈な印象を残しました。また同日に行われたシンポジウムでは、夫人のマリアム・サイードを招き、改めてサイードの精神を指し示すと同時に、今なお複雑な問題を孕み続けている世界の有り様を問い直す機会となりました。

ジャン・ジュネの著書『恋する虜』をめぐる旅に、サイードのまなざしを加え、引き続き、当センターのプロジェクトに思考と実践を重ねていきたいと思います。

©シグロ

シンポジウム風景

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

オペラ「松風」 ―能「松風」に基づいて―

日　　時：2006年5月13日（土）19:00開演
会　　場：京都芸術劇場 春秋座

作曲/指揮：アセーヌ・ラルビ
舞　　：西川 千麗
メゾソプラノ：小林 真理　　エレクトリック音楽デザイン…ジルベール・ヌノ
演　　奏：ヴァイオリン…辺見 康孝　　フルート/ピッコロ…奥田 律
クラリネット…上田 希　　ピアノ…森本 ゆり
ギター…金谷 幸三　　ハープ…松村多嘉代
チェロ…多井 智紀　　パーカッション…葛西 友子、大竹 秀晃

撮影：清水俊洋

創作オペラ『松風』は、伝統と現代の結びつきを、能とオペラという古くからの営みを通じて解明しようとした作品です。

パリで上演された「能」を初めて見た時、強い芸術的衝撃を受けたアセーヌ・ラルビは、「能」という芸能は決して過去のものではなく、現代そして未来へとその時代の中で生き続けていくものであるという思いを抱き、「西洋」と「東洋」、「伝統」と「現代性」を結びつける作品の創作に取りかかります。

更に、2000年度、レジデントとしての関西日仏交流会館ヴィラ九条山での滞在は、能をはじめとした日本の伝統文化の奥深さにふれる契機となり、その結果として、「松風」のリブレットには、世阿弥の他にもハイネ、小野小町、道元、ポール・クローデル（芳賀徹訳）、そして三島由紀夫のテクストの芸術的果実がさまざまな形で取り入れられました。

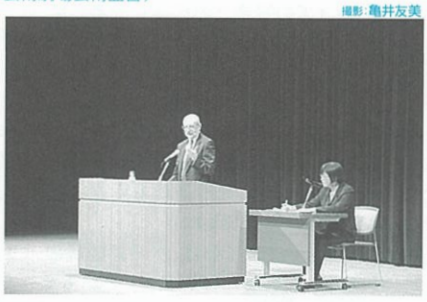
日本の伝統舞踊に現代芸術の要素を取り入れた西川千麗の優美な舞と、ヨーロッパをはじめ世界各地で活躍する小林真理の確かな歌唱力と、現代音楽でありながら古典的な響きも感じられる演奏と、ジルベール・ヌノのデザインによるエレクトリック音楽。これらの芸術的要素の融合により、能「松風」が伝統から抜け出し、オペラ「松風」として姿を変え、観客の前に現われた瞬間でした。

京都造形芸術大学主催 京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム

猿之助の世界 第二章

日　　時：2006年5月19日（金）19:00開演
会　　場：京都芸術劇場 春秋座
出　　演：ジョバンニ・アザローニ（イタリア・ボローニャ大学教授）
市川右近（歌舞伎俳優）　　毛利臣男（京都芸術劇場芸術監督）

撮影：亀井友美



昨年、5月に市川右近氏と梅原猛氏をお招きし大変好評を得た「猿之助の世界」。今年は、第二章として〈猿之助歌舞伎とジャポニスム〉をテーマに、京都芸術劇場 初代芸術監督 市川猿之助氏が歌舞伎を通して日本文化をいかに海外に広めたのかということに注目した講演を開催しました。

ゲストには21世紀歌舞伎組から、市川右近氏と市川猿之助氏による歌舞伎ゼミナールが行われた世界最古の大学イタリアボローニャ大学から、アジアにおける演劇史と舞台人類学を専門とするジョバンニ・アザローニ教授をお招きしました。

春秋座場内は、花道、定式幕、提灯は灯入れされ、春秋座本来の歌舞伎小屋の姿を演出し、柝の音で定式幕が開くと上手下手には大臣柱というしつらえです。

アザローニ教授による基調講演は、市川猿之助歌舞伎と日本文化への敬意に溢れる講演で大変分かりやすく、毛利芸術監督、アザローニ教授、市川右近氏の対談では、市川右近氏による女方レクチャーを来場されたお客様全員がその場で体験しました。また、市川猿之助氏がオペラ座などで公演を行った海外映像等の秘蔵VTRも上映し様々な角度から、猿之助歌舞伎を堪能できる90分でした。

天候はあいにくの雨でしたが、400名以上の方が春秋座にお越し頂き雰囲気、内容とも充実し大変熱気のある素晴らしい講演となりました。

来年も好評につき第三章として、市川猿之助氏のオペラ演出に着目した講演を開催予定です。ご期待下さい。

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

アルジュン・ライナ『マジック・アワー』

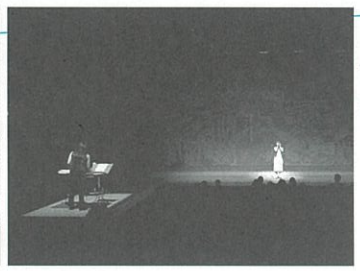
Arjun Raina, The Magic Hour in Khelkali

京都造形芸術大学・舞台芸術研究センターでは、研究テーマのひとつに「アジアの舞台芸術」を掲げています。明治以降、欧米の受容に依存してきた日本の近現代演劇が「アジア」に眼を向ける機会は、一部の「伝統芸能」を除くときわめて限られてきました。その一方で、近年のグローバル化の進展と国際状勢の諸変化のなか、「アジア」の相貌は、刻々変化しています。アジアの舞台芸術研究は、その「伝統」と「現代」を同時に視野におさめることなしにはもはや成立しえないにもかかわらず、実際にそうした舞台作品を見るチャンスはほとんどないのが現状です。

今回の『マジック・アワー』というソロ・パフォーマンスの作り手アルジュン・ライナ氏は、インドの代表的な古典舞踊劇カタカリの教育と、かつての宗主国イギリスの正統的な演劇教育とをどちらも修めた演劇人です。そうした異種混交的なバックグラウンドをベースに、インドの叙事詩「マハーバーラタ」とシェイクスピアの「オセロー」「夏の夜の夢」の間に意外な接点を見出しつつ、即興も交えながら繰り広げられたパフォーマンス(日本初演)は、普段日本ではめったに見ることのできない興奮を与えてくれました。技術スタッフとして、現役の京都造形芸術大学生も4名参加し、外国のアーティストの作品と直接共同するという貴重な体験の場ともなりました。

関連企画のワークショップでは、学生・一般を含めた約20名の参加者が、カタカリの基礎を学び、わずか4日間にもかかわらず、講師もびっくりするほどの上達ぶり。また、「ポストコロニアルの時代」をテーマにしたシンポジウムでは、ライナ氏自ら、このような作品を作ろうと思った経緯についての丁寧な解説があり、学内外からの活発で鋭い質問も飛びかっていました。

作・演出・出演:アルジュン・ライナ
日　　時:パフォーマンス　2006年　5月28日(日)15:00開演
　　5月29日(月)18:00開演
　　ワークショップ　2006年　5月23日(火)〜26日(金)
　　18:30〜20:30　4日間連続
会　　場:共に、京都芸術劇場 studio21(京都造形芸術大学内)
関連イベント:28日終演後、ポスト・パフォーマンス・トーク
　　29日終演後、シンポジウム
　　「〈マジック・アワー〉とポスト・コロニアルの演劇」
　　パネリスト:アルジュン・ライナ、鴻 英良(演劇批評家)



日　　時: 2006年6月4日(日) 15:00開演
会　　場: 京都芸術劇場 春秋座
演　　奏: 笙…宮田まゆみ　アコーディオン…シュテファン・フッソング
　　パーカッション…宮本妥子
プログラム: A.ピアソラ『グラン・タンゴ』(マリンバとアコーディオン)
　　J.S.バッハ『トリオ・ソナタ』(マリンバ、アコーディオン、笙)
　　鈴木和彦『ワイングラスと銀の器』(アコーディオン、笙)
　　細川俊夫『鳥たちへの断章Ⅱ』(笙+パーカッション) ほか

京都造形芸術大学主催

春秋座 アンサンブル・シリーズ　第1回『風が作る音楽』

「春秋座 アンサンブル・シリーズ」は、アンサンブルをとおして音楽の楽しさをお届けするために、年間5回のコンサートを行うシリーズ企画です。様々な楽器の組み合わせから生まれる新しい「音」との出会いがこのコンサートの魅力ですが、司会の有田栄さんによる曲目解説もまた楽しみの一つです。音楽の専門用語に頼らず、作曲家の生きた時代背景やエピソードなどを交えた解説は、音楽をより身近なものに感じさせてくれます。今回の演奏曲から《ジョン・ケージ:Two3(笙&法螺貝)》の解説をご紹介します。

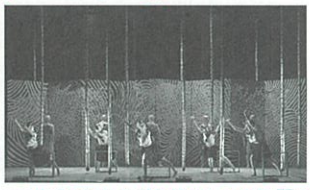
ジョン・ケージ(1912〜92)は、世界中のさまざまなジャンルの芸術家たちに大きな影響を与えたアメリカの作曲家です。普段私たちは、音楽とは多かれ少なかれ何かを「表現」したり「伝達」したりするものだ、と思っています。自分もまた始めはそうした考えにとらわれていたというケージは、舞踊家のマース・カニングハムとのコラボレーションを通じて、あるいは打楽器やノイズの音楽との出会いを通じて、そしてインドや禅の思想との出会いを通じて、「音」はただ「音」であるだけで十分なのだと気づき、そうした「表現的な音」と決別するのです。

汽車の窓の外を流れつづける風景のように、音は常にそこにあり、私たちがそれに気づこうと気づくまいと鳴り響いている。私たちは時おり窓に目をやり、その風景を——「音」を覗き込んでいるにすぎないのだ——というケージ。他方で彼は、オスカー・フィッシンガーの言葉を引いて、音とは、物に宿る「精霊」を解き放つことだと言います。彼にとって、「沈黙」とは、「無」とは、流れ続ける車窓の風景のような無限の可能性と、精霊たちの豊かなざわめきに満ちたものでした。

お聴きいただくのは、ケージ後期の「ナンバー・ピース」のひとつ。題名が、演奏者の数と、作曲された順番だけを表すことからそうよばれる作品群です。1990年、ドイツのダルムシュタットで宮田まゆみさんと笙に出会い、その音の世界に魅了されたケージは、1991年、この《Two3》につづいて、《Two 4》、《One 9》と、立て続けに笙のための作品を書いています。　(有田 栄)

撮影:松田純一

『魂戯(たまざ)れ』再演



2003年12月6日、7日に京都芸術劇場・春秋座で初演された大駱駝艦の『魂戯れ』(※)が、5月18日から21日に東京・前進座劇場で再演された。この作品は、歌舞伎の劇場空間を、あらたなイメージの世界に再生させたことでも、高く評価されていた。今回は更に舞踏が持つ身体性の深さが極められ、作品をダイナミックにしていた。今後も劇場との出会いによってこのような作品が生まれてくることに期待したい。

※同作(初演時)を特別編集した作品『「魂戯れ」の記憶の記録』(編集:rem-sketch)が国際ダンス映像祭に出品され、特別賞を受賞。

京都造形芸術大学主催　京都芸術劇場　毛利臣男芸術監督プログラム

ATG Film Exhibition（同時開催：ATGポスター 葛井欣士郎コレクション展）

日程：2006年6月8日(木)～6月11日(日)　　会場：京都芸術劇場 春秋座

京都芸術劇場毛利臣男芸術監督プログラムの一環として「ATG Film Exhibition」と題し、京都造形芸術大学 京都芸術劇場 春秋座にて、6月8日(木)～11日(日)にかけて、日本アートシアターギルド（以下ATG）全盛期の4作品の上映と、監督、プロデューサーによるトークショーを開催しました。

ATGは、1961年、全国に10館の加盟館を持つ芸術映画専門のアートシアターとして誕生しました。後には、日本映画の製作も手掛けるようになり、作家達から持ち込まれた企画を審査して、1千万円の資金をATGと監督で折半したことから「1千万映画」とも呼ばれています。低予算ながらあらゆる分野の作家に映画製作の機会を与え、たとえお客が入らなくても最低1カ月は続映するという原則を貫き、日本が世界に誇れる映画を多数発表、本当に自分の作りたい映画だと言える作品を創れる場として、多くの映画人たちの期待に応える唯一の存在でした。

足立正生、大島渚、篠田正浩、寺山修司、松本俊夫、吉田喜重、若松孝二、（敬称略50音順）ら多くの才能が育ち、現在の映画界に多大な影響を与えています。現在のミニシアターブームはATGの功績よる所が大変大きいと言われています。

今回、毛利臣男芸術監督プログラムでは、春秋座での映画上映に、35mm映写機と大型スクリーンという本格的な機材を用いシネマコンプレックスやDVDなどのデジタル全盛の現在では体験する機会が少なくなった大迫力、大音量という映画の醍醐味を体験出来る舞台を作りました。

期間中は、悪天候の日もありましたが、4日間で、1,500人以上の方が京都芸術劇場　春秋座に訪れました。映画上映後に開催されたトークショーでは、ゲストと観客が一体となり、盛んな質疑が取り交わされ、場内は大変熱気に溢れるものとなりました。当時の映画創りの情熱と、60年代～70年代の新宿を中心とする混沌とした時代を背景に生まれた映画。（※今回の上映4作品は全て新宿を舞台としている。）そしてそこから生まれたフィルム文化とクリエイター達の人間力が、映画館だけに留まらず、いかに当時の芸術や文化に影響し新しい時代のエッジを形成していったかを多くの方々が感じる事が出来たのではないでしょうか。

最後に、今回ご出演して頂いた、ATGの伝説的名プロデューサー、葛井欣士郎氏の印象的な言葉を引用致します。

―（今回の上映作品とATG作品全般に対して、）「ストーリーというよりも映像を重視して、見る人の好きなように解釈して下さい。2日、3日と経つごとに色々と印象が変わってくることを楽しんで欲しい。1960年代1970年代、ATGを見てたくさんのクリエイターが育ちました。京都造形芸術大学からも、この機会にATG作品を見た人たちの中から、明日の時代を担う素晴らしい才能が育って欲しい。」―

温故知新―感覚や直感に対してダイレクトに問いかけてくるATG作品に、毛利臣男芸術監督プログラムでは、今後も着目し来年度もPART2として開催予定です。

皆様、乞うご期待!

上映作品とトークショー出演者

6月8日(木)

寺山修司監督『書を捨てよ町へ出よう』
1971年／35mm／カラー／スタンダード／138分
アフタートーク：九條今日子（人力飛行機舎代表）
×榎本了壱（京都造形芸術大学教授情報デザイン学科長・クリエイティブディレクター）

撮影：亀井友美

6月9日(金)

大島渚監督『新宿泥棒日記』
1969年／35mm／パートカラー／スタンダード／94分
アフタートーク：葛井欣士郎（映画演劇プロデューサー）
×毛利臣男（京都芸術劇場芸術監督・空間演出家）

撮影：亀井友美

6月10日(土)

松本俊夫監督『薔薇の葬列』
1969年／35mm／モノクロ／スタンダード／107分
アフタートーク：松本俊夫（映像作家）
×四方田犬彦（映画史家）

撮影：亀井友美

6月11日(日)

若松孝二監督『天使の恍惚』
1972年／35mm／パートカラー／スタンダード／90分
アフタートーク：若松孝二（映画監督）×足立正生（映画監督）

撮影：上田啓輔

同時開催

ATGポスター 葛井欣士郎コレクション 展
日程：2006年6月5日(月)～6月11日(日) 9:00～18:00
会場：京都造形芸術大学　人間館1Fラウンジ
ATG映画ポスター、蠍座公演のポスター21点、
当時の映画パンフレットや寺山修司氏の映画企画書、
三島由紀夫サイン入りシナリオ本等、展示

月	日	曜日	開演時間	催し物	内容	会場	問合せ先	チケット販売
7月	2	日	①13:00 ②17:30 ③19:00	足立正生初期作品群 ＆最新作特別上映会 〈原点から現点へ〉	足立正生監督35年ぶりの新作「幽閉者」と、日本大学新映画研究会時代を含む初期作品群を一挙上映。 ①③「幽閉者」(2006年/113分)②「赤軍―PFLP・世界戦争宣言」(1971年/71分) ※15:30～ シンポジウム ゲスト：足立正生(映画監督)、佐藤真(映像作家)、小野沢稔彦(映画プロデューサー)他	S	京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科研究室 TEL 075-791-9353(平日9～17時) TEL 075-791-9121(土・日)	1プログラム 前売800円 当日1,000円 高校生・シニア(60歳以上)・障害者800円 通し券3,000円〈前売・当日共〉 *京都造形芸術大学映像・舞台学科 研究室にて販売 ※別会場での開催もあり。 自
	4	火	16:10	2006年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【前期】第十二回「講談(実演)」室井馬琴	春	京都造形芸術大学 瓜生山エクステンションセンター TEL 075-791-9124	常時受付 各期 10,000円 ※受講申し込みは問合せ先へ 前期 4月11日～7月18日(全13回) 後期 9月26日～1月16日(全12回)
	13 14	木 金	19:00 17:00	映像・舞台芸術学科 川村毅クラス授業発表公演 「オムニバス 怪奇大作戦」	舞台芸術コース2回生、川村毅クラス授業発表公演。「怪奇大作戦」をタイトルに、三作のオムニバス形式で、様々な恐怖の形態を描きます。 第1話「Amusing Night」作：今出班 演出：今出茜 第2話「人生ゲーム」作：藤沢班 演出：藤沢美里 第3話「部屋いっぱいの気持ち」作：村岡班 演出：村岡芙実	S	京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科研究室 TEL 075-791-9353(平日9～17時) TEL 075-791-9121(土・日)	入場無料 自
	15	土	14:00	響きeyeコンサート	第5回京都造形芸術大学和太鼓研究センター登録者・チーム発表会及び、和太鼓教室修了発表会。	春	京都造形芸術大学 和太鼓研究センター TEL 075-791-9145(平日10～18時)	800円 自
	18	火	16:10	2006年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【前期】第十三回「浪曲(実演)」国本武春	春	※7月4日の欄をご参照下さい	
	20 21	木 金	19:00 14:00	映像・舞台芸術学科 高嶺格クラス授業発表公演 「娘腺アロマロアエロゲロエ」	舞台芸術コース3回生 高嶺格クラスの授業発表公演 出演・スタッフ：映像・舞台芸術学科3回生	S	京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科研究室 TEL 075-791-9353(平日9～17時) TEL 075-791-9121(土・日)	入場無料 自
	22	土	18:00	春秋座アンサンブル・シリーズ(全5回) 「美しきブラス・クインテット 世界の旅」	大阪フィルハーモニー交響楽団の華麗なる金管奏者4人とフランスで学び、今、日本で活躍するテューバのヴィルトーソ橋本晋哉によるブラス・クインテット。ヴィヴァルディからアーノルドまで、ヨーロッパ、アメリカの金管作品の美しさを極める響きをお楽しみください。 出演：トランペット…秋月孝之、橋爪伴之 ホルン…村上哲 トロンボーン…ロイド高本 テューバ…橋本晋哉	春	京都芸術劇場チケットセンター TEL 075-791-8240 舞台芸術研究センター TEL 075-791-9437	【発売中】一 般 2,500円 学生＆ユース 2,000円 友の会 2,000円 ※当日各500円増 リピート割引あり 自 ぴ
	29 30 31	土 日 月	14:00 14:00 14:00	瓜生山歌舞伎 ――市川亀冶郎の挑戦	演目：「奥州安達原」「松廼羽衣」 出演：市川亀冶郎、片岡愛之助、中村亀鶴、坂東竹三郎、市川段四郎 他	春		【発売中】一 般 S席8,000円/A席6,000円 ※当日各500円増 学 生 S席6,000円/A席4,000円 友の会 S席7,200円/A席5,400円 指 ぴ
8月	11	金	15:00	平安京・平城京 摩訶不思議の宴2006	近代産業遺産のアート再生計画プロジェクト第2弾。 シンポジウム「新・妖怪談義・夏の縁(壱)」 妖怪狂言「豆腐小僧」(作：京極夏彦、演出：茂山あきら)	春	京都造形芸術大学内「平安京・平城京 摩訶不思議の宴2006」実行委員会 TEL 075-791-9124	【発売中】前売 4,000円 当日 4,500円 京都・奈良通し券 7,500円 (※通し券は実行委員会までお問合せください) 友の会 3,600円 自 ぴ
9月	7	木	13:30	もうひとつの歌舞伎舞踊 ～女師匠たちの坂東流～	第1部：デモンストレーション『ここが坂東流』「京鹿子娘道成寺」「加賀の菊」「しのぶ売」 第2部：対談「女師匠たちの坂東流」坂東三津五郎(家元)vs今尾哲也(玉川大学名誉教授) 第3部：舞踊「清元 納豆売」 出演：坂東三津五郎、坂東勝友、坂東寿子、坂東温子、今尾哲也、吉田芙喜子、田口章子	春	京都芸術劇場チケットセンター TEL 075-791-8240 舞台芸術研究センター TEL 075-791-9437	【7月4日発売予定】一 般 3,000円 学生＆ユース 2,000円 友の会 2,700円 指 ぴ
	26	火	16:10	2006年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第一回「舞う芸と踊る芸」理論：諏訪春雄	春	※7月4日の欄をご参照下さい	
10月	3	火	16:10	2006年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第二回「舞樂」実演：天王寺樂所雅亮会(解説：木戸敏郎)	春	※7月4日の欄をご参照下さい	
	7	土	15:00	春秋座アンサンブル・シリーズ(全5回) 「古くて新しい名曲を旅して」	京都出身でヴィオラ・ダ・ガンバの名奏者、平尾雅子と古楽のスペシャリスト達による、ルネッサンス期の作品から現代曲までのプログラム。時間を超えた音楽の旅へと皆様をいざないます。フリーアナウンサーの朝岡聡が、ゲスト・リコーダー奏者としてアンサンブルに加わります。 出演：リコーダー…山岡重冶 ヴィオラ・ダ・ガンバ…平尾雅子 チェンバロ…上尾直毅 リュート…金子浩 司会・リコーダー…朝岡聡	春	京都芸術劇場チケットセンター TEL 075-791-8240 舞台芸術研究センター TEL 075-791-9437	【発売中】一 般 2,500円 学生＆ユース 2,000円 友の会 2,000円 ※当日各500円増 リピート割引あり 自 ぴ

2006年7月～9月 京都芸術劇場スケジュール

凡例― 春 春秋座公演　S studio21公演　指 指定席　自 自由席　ぴ 電子チケットぴあ取扱 http://t.pia.co.jp/　☺ 未就学児の入場も可

*特に表記のない場合、前売と当日は同じ料金　*ユースとは、学生または25歳以下対象

チケットお問合せ先

京都芸術劇場チケットセンター … TEL：075-791-8240（営業：平日10:00～17:00／公演開催日）

E-mail：ticket@kuad.kyoto-art.ac.jp

京都造形芸術大学
京都芸術劇場
Shunjyuza / Studio21

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
tel 075-791-9437 fax 075-791-9438
URL http://www.k-pac.org/